

日々発展を続ける街

韓国の首都ソウルは「アジアの中心」を目指す非常に活気のある街である。十年ひと昔というが、ソウルでは三年ひと昔と思えるほどに街の景色が変わるのが速い。地下鉄はあちらこちらで延長工事が行われ、

市内の中心を流れるハン川沿いはサイクリングロード、市民の憩いの場となる休憩所、花壇な



校舎全景



●大韓民国●

ソウル 日本人学校



「サンガ」と呼ばれる商店街

どが継続的に開発・整備されている。

ソウル市の面積は韓国全土の一パーセント足らずであるが、ここに韓国国民の約五分の一にあたる一〇〇〇万人もの人々が暮らしている。そのため、市内には高層マンション群が目立つ。近年の韓国電子産業の発展は目覚ましく、生活の中

でもIT技術が非常に進んでいることが感じられる。一方で「サンガ」とよばれる人情味あふれる市場もまた、ソウルを魅力的な街にしている。そこには大都会ソウルのイメージとは少し違った人々の息遣いを感じられ、韓国人々のエネルギーが伝わってくる。

現地の教育環境

韓国の学校制度は、日本と同じく六・三・三・四制である。新年度の開始は三月。土曜日は隔週で授業がある。高等学校への進学にあたっては、「平準化政策」のため競争的な入学試験はあまり行われていない。

一方で日本のセンター試験にあたる「大学修学能力試験」は国家を挙げての一大イベントとも感じられるほどで、韓国が学歴社

小学部5年 英会話



中学部2年 理科(中間テスト対策)



会であることが垣間見られる。

二〇〇〇年に「英才教育振興法」が制定され、近年は「能力の高い子ども」により優れた教育環境を与えて、より高度な教育を受けさせようとするエリート教育にも力が入れている。

新しく生まれ変わった学校

本校は一九六五年の日韓国交正常化から七年後にできた。開校から三十八年目の昨年、建物の老朽化のため現在の土岩洞地区に移転した。新しい校舎は教室やオープンスペースがそれぞれの学齢に合わせて設計されている。各教室にはホワイトボード、プロジェクター、大型テレビ、パソコン、実物投影機など最新のIT機器が備えられている。毎年、約三分の一の子どもの出入



子どもたちから

みんなががんばってべんぎょうをするから、べんぎょうが楽しくなります。(142)

このソウル日本人学校は転入生が多いのでたくさん友達ができます。それによつて部、小学部、中学部の仲間がいるのでとても明るいです。(145)

ソウル日本人学校は、韓国の学校と交流会をします。日本では、味のあるお弁当です。韓国の子と友達になれるのがいいです。(216)

が深まるようにしている。

Japanese School in Seoul

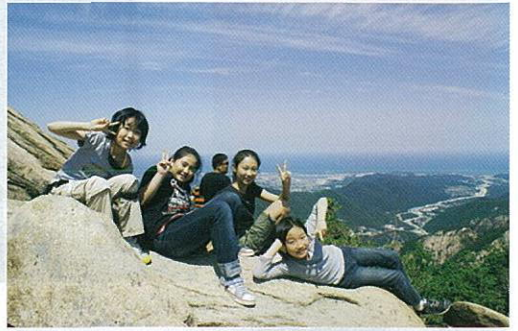
URL <http://www.sjshp.or.kr>

児童生徒数 幼=61人 小=281人 中=79人

りがあるが、転入生もすぐにアットホームな雰囲気慣れて元気に学校生活を送っている。国際理解の意識を高めるため、幼稚部から中学部まですべての学年において現地校との交流会を年に二回ほど行っている。スポーツ交流をはじめ伝承遊び・おにぎりパーティーといった日本文化の紹介や行事など、それぞれの発達段階に応じて工夫を凝らしている。また韓国語を週に二時間、英会話を週に一〜二時間、これも幼稚部から中学部まで行っている。韓国語はレベルに合わせてクラス分けをし、会話や筆記のみならず、文化理解のために韓国の歌の紹介や食体験・服装体験なども行っている。同様に、英会話についても歌を歌ったりパンキンパーティーを行ったりして文化理解

(二〇一二年五月現在)

幼・小・中の枠を超えた子どもたち同士の交流も、本校ならではの活動である。小学部一年の子どもたちが幼稚部の子もたち遊びを教える授業があったり、清掃の時間に五年生の子もたちが幼稚部の部屋を清掃したり、小学部と幼稚部の子もたちがお弁当をいっしょに食べたりすることもある。運動会で中学部の生徒が園児の手を引いて入場する姿はとても微笑ましく、保護者からもたいへん好評な一コマである。本年度は、毎週月曜日に行う「集会」にも力を入れていく。集会では異学年交流を軸にした縦割り班活動を行ったり、他学年の発表を見たり、全員が集ってゲームをしたりするなど、子どもたちがより一体感を持って学校生活を送れるよう、全教職員が一丸となって取り組んでいる。



小学部1年 国語



中学部1年 水泳記録会

